

特集 地域特産物を支える技術

地域特産物を支える技術

本県は多様な気候風土に育まれた、特色ある様々な地域特産農産物が栽培されている。これら農産物のさらなる栽培面積増加、品質向上やブランド化の推進には、栽培技術の向上対策や品質的な特長に基づく情報発信が必要である。

今回の特集では、「美方大納言」小豆の亜リン酸

肥料施用、イチジクの新樹形及び温州ミカンの夏秋季灌水による増収・品質向上技術を紹介する。また、ホウレンソウの残根除去による萎凋病対策とアサクラサンショウの品質的特長について研究成果を紹介する。

福嶋 昭（北部 農業・加工流通部）
（問い合わせ先 電話：079-674-1230）

亜リン酸肥料施用による「美方大納言」小豆の増収技術

美方郡の特産小豆「美方大納言」の播種20～35日後に粒状亜リン酸肥料を1株当たり1g施用することにより、莢数が増加し、増収する。

内容

美方郡の特産物として注目されている「美方大納言」は、乾燥子実の百粒重が大きく、種皮色が鮮赤色でショ糖含量が高いのが特長であるが、収量が低く、増収技術の導入が望まれている。

そこで、粒状亜リン酸肥料（成分量7%）を小畝立て時（播種20日後）あるいは中耕時（35日後）に1回、1株当たり1g、株元に施用した（写真）。その結果、3か年を通じて、亜リン酸肥料施用による増収効果が認められた。播種後20～35日の施

用で莢数が増加し、無処理に対する増収割合は、播種後20日施用で9%、35日施用で18%であった（図）。

普及上の注意事項

亜リン酸肥料の効果を最大限に活かすためには、施用までに生育を確保しておく必要がある。そのためには、播種適期（7月中～下旬）を逃さないことが重要である。

澤田 富雄（農産園芸部）
（問い合わせ先 電話：0790-47-2412）



写真 粒状亜リン酸肥料
1gの施用状況（白い点）

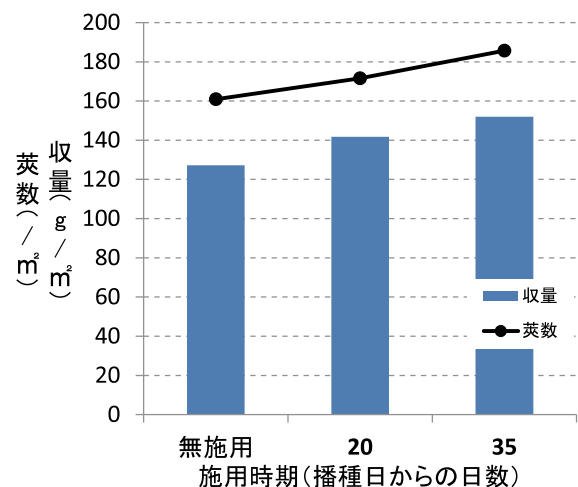


図 亜リン酸肥料の施用時期別莢数増加効果
と増収効果（2011～2013年 3か年平均）